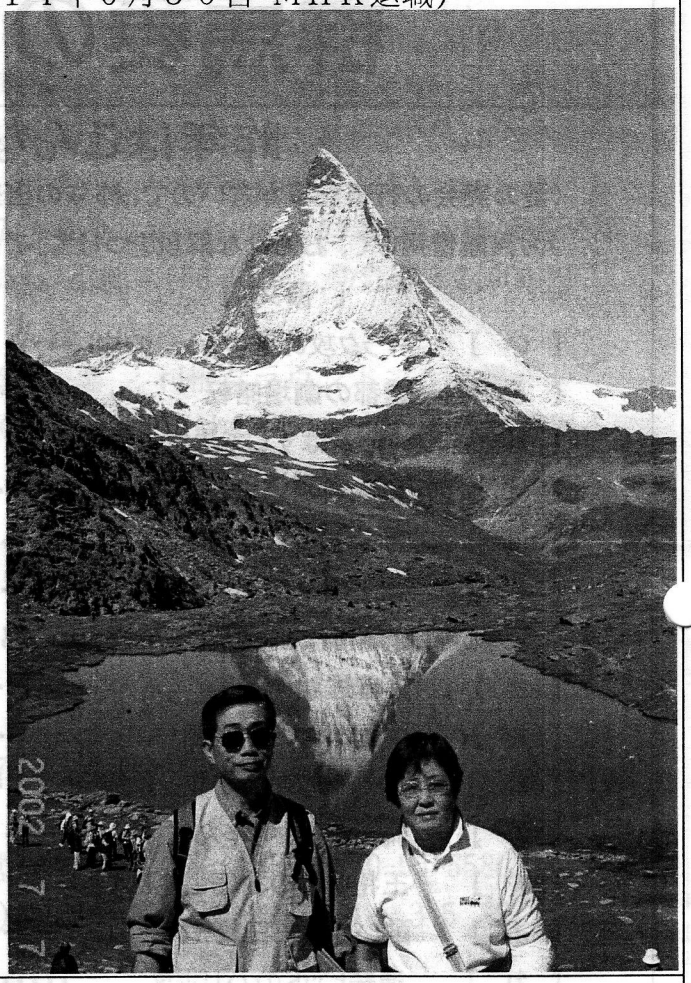
新会員紹介　　海津 栄一さん　（平成１４年６月３０日 ＭＨＫ退職）

〒373-0036　太田市由良町９３３－５
電話 0276-32-4091



平成１４年６月末で、三菱電機ホーム機器（サイテック）を退職し、この度、菱の実会に入会させて頂きました。どうぞよろしくお願いいたします。

会社生活の４２年余は、群馬、名古屋、本社などで、いろいろな仕事を担当させて頂き、それぞれ記憶に残る仕事や人との出合いがありましたが、何といっても青春時代を過ごした「馬電」が一番印象深い、会社生活の故郷です。今回、その馬電のＯＢ会「菱の実会」に入会させて頂き、定年後の大きな楽しみがひとつ増えました。出来る限り行事に参加して懇親を深め、楽しく過ごさせて頂ければと思っております。今後もいろいろとお世話になりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

会員投稿　『雙林寺(そうりんじ)の七不思議』　太田市　増田 三郎

尾島町から赤城山と榛名山の山々が見えますが、その中間に見える子持山の麓が群馬県北群馬郡子持村です。この村にある雙林寺には七つの不思議な話が伝わっています。そんな伝説をご紹介します。

１　開山の一つ拍子木(ひょうしぎ)：お寺の境内にある開山堂の左前に台があり、その上に一つの拍子木が置いてあります。お寺の中で、何か悪いことが起りそうになると、夜、一つ拍子木が鳴るのだそうです。住職は開山堂にお参りしてお祈りをし、お寺の人々も心を清めて不吉なことが起らないよう注意していました。　このお寺では今でも一つ拍子木を打つことを禁じています。

２　開山のつなぎ榧(かや)：子持村白井には白井城がありました。この白井城主長尾昌賢が雙林寺を創立し、小田原から月江和尚を迎えました。和尚はカヤの実で作った珠数(じゅず)を持ってきました。この珠数玉を庫裡(くり)の横に蒔いたところ、大木となり針糸を通したような穴のある実がなりました。この実を「開山のつなぎガヤ」と呼んでいます。月江和尚の入山は文安四年(１４４７年)ですから樹齢約５５０年、昭和２７年１１月１１日に群馬県指定天然記念物となっています。

榧(かや)――山野に自生する、いちい科の常緑高木。庭木としても植える。
種子から油をとり、食用。材は堅く、建築、碁盤などに使う。

３　龍神水：本堂の北に竹やぶがあります。その中に開山当時から飲用していた水沢があり、利用した跡が残っています。龍の神が月江和尚の徳をしたって、湧き出させたといわれ

ています。人数の多少により湧き出る量が変わり、「人増せば水増す」といわれ、二千人の時も水が不足しなかったそうです。

4　山門の小僧と鶴：左甚五郎の作と伝えられている彫刻で、小僧は山門の中段に、鶴は山門の南にあります。修行僧たちが、夜、禅問答をしていると、突然小僧が出てきて問答を仕掛けて困らせた。それで、住職は懲らしめのため小僧の片手を打ち落としてしまった。その後小僧の姿が見えなくなった。翌朝、山門に来て見ると、山門の小僧には片手が無くなっていた。また、夜中に大きな鳥が飛んで来て、お寺の近くの田や畑を荒らすので困っていた。ある夜、猟師を頼んで鉄砲で撃ち、確かに手応えはあったが、鳥の姿は見当たらなかった。翌朝、山門の鶴を見ると、足に鉄砲に撃たれた穴が開いていた。以後、両者のいたずらは無くなったそうです。

5　千本柏：本堂裏の高台にあるこの木は、古い切り株から芽が出て成長したものらしく、根本は一つで十数本の支幹が生えている。木の種類は「アラカシ」。
昔からこの木を切れば住職が死ぬというので、お寺でもっとも大事にしているものの一つである。昭和２７年１１月１１日に群馬県指定天然記念物となっています。
アラカシ――山地に生え、関西地方以西によく植えられている常緑高木。
　　ブナ科、どんぐりのような実がなる。

6　鏡の井戸：本堂と焼失した禅堂の中間にある古井戸で、この井戸を覗いて見て、顔が井戸の底にうつらなければ、その人はその日のうちに死ぬと伝えられています。行った時は覗かない方がよいでしょう。

7　忠度の桜(面影の桜)：開山月江和尚に従って来た牽牛(けんぎゅう)という者が、ある夜、平家物語の平忠度が戦死するところを談じたところ、突然武者一騎が現れた。
開山　「その方は何者だ！」
武者　「われは薩摩守忠度である」
開山　「何用あって参ったのだ」
忠度　「源氏との合戦に、いよいよ最期がおとずれた。桜花爛漫のもと、辞世の句を詠もうと思い”行き暮れて”と上の句だけできて下の句ができあがらないうちに激戦となり、ついに戦死してしまった。下の句が心にかかって、成仏できない、どうかわれに安楽を与えてくだされ」
開山　「なに、そんなことお安いことだ、”……花に心は　なかりけり”どうだ」
忠度　「ありがとうございました。われもこれで安心、成仏できます。お礼に何かと思いますが、今戦場で何の持ち合わせもありません。さいわいに、われが多年戦場を持ち回った桜のムチがあります。これを寺の境内に挿しておきます。もしそのムチから芽がでてきたらわれが成仏できたと思ってくだされ」
と、かき消すように見えなくなった。翌朝、境内を見て回ったところ、皮の破れた桜の古ムチから芽が出ているのが見つかった。この桜はある程度成長すると枯れて、また、新しい若木が芽をだしてくるそうです。

この資料は３０数年前(昭和４５年頃)、上毛新聞に掲載されたもので、父が切り抜き集として残してありました。現在、雙林寺がどのようになっているか、尋ねてみるのも一考かもしれません。（雙林寺の住所：群馬県北群馬郡子持村中郷２３９９　TEL ０２７９－５３－３４３６）

以上